

平成 24 年度 社団法人 日本動物学会  
2 回理事会議事録

日時 平成 24 年 6 月 9 日 (土) 13:00~17:00

場所 北海道大学東京オフィス (東京都千代田区丸の内 1 丁目 7-12)

出席者: 19 名 (欠席 1 名)

理事会の審議に先立ち、玉手庶務幹事より、定足数を満たしており、定款 27 条 2 項の規定により理事会が成立していることが報告された。会長が議長を務め、議事録署名人として玉手庶務幹事、寺北会計幹事を指名することが提案され、了承された。

#### I. 報告事項

##### 1. 公益団体の認可について (長濱会長)

長濱会長より、6 月 27 日に公益認定委員会より認可書が交付され、7 月 2 日付で公益団体に移行することが決定したことが報告され、謝意が述べられた。

##### 2. 庶務報告 (玉手庶務幹事)

資料 1 に基づき新入会員 228 名の加入が報告され、入会を承認した。

##### 3. 会計報告 (寺北会計幹事)

平成 23 年度科研費補助金に関して、Zoological Science 印刷出版費補助金 380 万円、学術集会開催 90 万円の内定通知があったこと、国立情報学研究所から CiNii 返還金 (動物学雑誌、彙報、Zoological Science の使用料) として約 51 万円が返還されたこと等が報告された。また、会費の納入状況は約 200 万円が未納であり、未納者への対応が必要である旨、説明があった。

##### 4. 公開促進費 (定期刊行物) の大改革への対応について (永井事務局長)

資料 2 に基づき、公開促進費の状況について説明があり、来年度以降の対応を検討する必要があることが報告された。

##### 5. UniBio Press からの購読料返還について (永井事務局長)

資料 3 に基づき、返還額が説明された。

##### 6. 平成 24 年度第 83 回大阪大会について (七田理事)

七田理事より、平成 24 年度第 83 回大会の準備が順調に進んでいること、締切日 10 時現在で演題登録数が 429、参加登録数は 698 であること、シンポジウム 13 件と集会 9 件が予

定されていること等が報告された。

#### 7. 平成 25 年度第 84 回岡山大会について（高橋純夫理事）

高橋理事より、同大会を、岡山大学において平成 25 年 9 月 26 日から 28 日までの期間に開催することが報告された。一般発表は口頭発表とする予定。2 日目の総会と受賞者講演は大学外の会場で開催する計画である。

#### 8. 広報委員会報告（植木理事）

メールマガジンの発行等の広報活動は計画どおり進行しており、英語版のホームページへの対応を今後進める予定であることが報告された。

#### 9. 生物科学学会連合会費の値上げについて（真行寺理事）

会費を来年度より 5 万円に値上げすることが提案されており、各学会の承認を得たい旨が報告された。次いで、会長から本学会としての対応を決めたいとの発言があり、提案のとおり承認することが了承された。

#### 10. 男女共同参画連絡会事務局の担当について（永井事務局長）

本学会が事務局を担当することとなり、今年度は大規模アンケート調査の分析作業を行い、来年 10 月には本学会主催でシンポジウムを開催する必要があることが述べられ、具体的活動は次期理事会が担うことになる旨、説明された。

#### 11. その他

##### (1) 選挙結果について（寺北理事）

理事選挙について以下のような検討課題があることが説明された。

- ・理事選挙の確認メールについては、改善すべきとの意見があった。
- ・理事候補の会員歴が長い順に決定することを定めているが、履歴の調査が困難で時間を要した。データベース化を進めるべきである。
- ・次期会長候補者 3 名を選ぶときに、再投票を行うため時間を要する。そのため、研究歴等の資料を作成いただく時間が少ないという問題があった。研究歴等のほか抱負も添付したほうがよいので、次回以降は自由に記載する欄も設けることを検討願いたい。
- ・理事の辞退については、理事就任後の第 1 回の理事会において去就をご判断いただきたい。9 月総会前に次期理事による予備会合を開いて、ご検討願いたい。総会において次点の繰り上がりについても認めていただくようにしたい。

##### (2) 教育賞について（竹井理事）

5 月末に締切り 3 名の応募者があった。理事会審議事項なので、メールで選考結果を通知・審議して、9 月理事会で確認する。

(3) 震災後の遺伝子資源の調査について (岡理事)

大学連携のプロジェクトが立ち上がった。基生研(遺伝子資源の保存)の施設ができる。今年度大会の本部企画シンポジウムは、自然史標本を保存することの重要性をテーマとする。

II. 審議事項

1. 第1号議案 社団法人日本動物学会平成24年度補正予算について (寺北理事)

資料5に基づき説明があり、原案どおり承認された。

2. 第2号議案 公益社団法人日本動物学会平成24年度事業計画について (玉手理事)

資料6に基づき説明があり、原案どおり承認された。

3. 第3号議案 公益社団法人日本動物学会平成24年度予算について (寺北理事)

資料7に基づき説明があり、原案どおり承認された。

4. 第4号議案 平成24年度論文賞 Zoological Science Award 2011 (藤井賞) について

倉谷 Zoological Science 編集主幹に代わり玉手理事から、2011年 Zoological Science に掲載されたすべての論文の中から、以下の10編が受賞候補として推薦されたことが選考経過の説明と共に報告され、審議の結果全会一致で承認された。なお、以上の論文には藤井賞も併せ贈呈される。

ZOOLOGICAL SCIENCE Award 2012 (掲載順)

1. Zool. Sci. 28: 148-157

Masanori Okanishi and Toshihiko Fujita

A Taxonomic Review of the Genus *Astrocharis* Koehler (Echinodermata: Ophiuroidea: Asteroschematidae), with a Description of a New Species

ヒメモズル属 *Astrocharis* と呼ばれる、ツルクモヒトデ類(棘皮動物門:クモヒトデ綱)の中ではコンパクトな一群に着目し、数多くの調査航海で得られた新種の日本産標本と、アムステルダム大学動物学博物館、コペンハーゲン大学動物学博物館、ハーバード大学比較動物学博物館に収蔵されていた多数のタイプ標本を含む歴史的コレクションの比較観察に基づいた分類学的再検討。本属では100年ぶりとなる新種の美しい標本写真は28巻2号の表紙を飾った。博物館標本の重要性を世に問う力作。

2. Zool. Sci. 28: 180-188

Ryusuke Sudo, Hiroaki Suetake, Yuzuru Suzuki, Tomoko Utoh, Satoru Tanaka, Jun Aoyama and Katsumi Tsukamoto

Dynamics of Reproductive Hormones During Downstream Migration in Females of the Japanese Eel, *Anguilla japonica*

ウナギの野外での回遊行動の生理基盤を明らかにするために、耳石に基づく生態的解析とホルモンの生理解析という異なる2つの手法を組み合わせたユニークな研究であり、今後このような学際的研究が期待されることから、論文賞にふさわしいと考える。

3. Zool. Sci. 28: 195-198

Michio Imafuku and Takashi Haramura

Activity Rhythm of *Drosophila* Kept in Complete Darkness for 1300 Generations

1300世代(55年)もの間、暗闇で飼い続けたショウジョウバエが、光刺激を与えると通常のハエと同様のサーカディアンリズムを示すことを示した論文。この研究成果は、生物が洞窟などの暗黒環境に適応する過程を考察する上で大変貴重なヒントを提供するであろう。

4. Zool. Sci. 28: 206-214

Azusa Kage, Eriko Asato, Yoko Chiba, Yuuko Wada, Yumiko Katsu-Kimura, Ayami Kubota, Satoe Sawai, Maki Niihori, Shoji A. Baba and Yoshihiro Mogami

Gravity-Dependent Changes in Bioconvection of *Tetrahymena* and *Chlamydomonas* During Parabolic Flight: Increases in Wave Number Induced by Pre- and Post- Parabola Hypergravity

本論文は原生生物(テトラヒメナ、クラミドモナス)を用いて、航空機の弾道飛行実験により、生物対流パターンに重力が重要なことを明らかにした論文である。密度や懸濁液の深さなどの実験要因を十分に検討し、あまり理解されていない生物対流という現象の一面を捉えた点で重要である。

5. Zool. Sci. 28: 225-234

Ryutaro Goto, Yoichi Hamamura and Makoto Kato

Morphological and Ecological Adaptation of *Basterotia* Bivalves (Galeommatoidea: Sportellidae) to Symbiotic Association with Burrowing Echiuran Worms

瀬戸内海および奄美大島の潮間帯に見られるゴゴシマユムシ *Ikedosoma gogoshimense* とスジユムシ *Ochetosoma erythrogrammon* の棲管にそれぞれ共生するイソカゼガイ *Basterotia gouldi*、及び同属の新種ハイヌミカゼガイ *Basterotia carinata* の形態・生態的な適応を論じた一報。これまで殆ど着目されてこなかったユムシの棲管内という特殊な生息環境に共生者たちがどのように適応しているのか、という動物学的な視点がまさに ZS Award にふさわしい。

6. Zool. Sci. 28: 313-317

Daisuke Shibata<sup>1</sup>, Yoshiaki Hirano and Miéko Komatsu

Life Cycle of the Multiarmed Sea Star *Coscinasterias acutispina* (Stimpson, 1862) in Laboratory Culture: Sexual and Asexual Reproductive Pathways

無性生殖を行う分裂性ヒトデ類における有性生殖や生活史に関する知見はきわめて乏しい。本論文では分裂性ヒトデの放卵・放精をはじめて観察することに成功し、さらに稚ヒトデから成体に至るまでの無性生殖を含む成長過程を、室内実験、野外調査により詳細に調べた研究の論文である。無性生殖と有性生殖の両生殖様式の実態を明確に示した優れた研究論文である。

7. Zool. Sci. 28: 348–354

Wataru Toki and Katsumi Togashi

Exaggerated Asymmetric Head Morphology of Female *Doubledaya bucculenta* (Coleoptera: Erotylidae: Languriinae) and Ovipositional Preference for Bamboo Internodes

タケの節間をかじって孔をあけ、産卵する習性をもつニホンホホビロコメツキモドキという甲虫について、形態測定によって雌成虫特異的に大顎および頬に顕著な左右非対称性があること、大型の雌成虫はより太いタケを選んで穿孔、産卵すること、小型の雌成虫は小さなタケを選ぶがしばしば穿孔及び産卵に失敗すること、産卵されたタケの太さは出てくる成虫の体サイズと正の相関があることを報告した。左右非対称性の意義について、形態測定学、機能形態学、適応度測定を駆使して明らかにした興味深い研究である。

8. Zool. Sci. 28: 430-437

Akihiko Yoshida and Jun Emoto

Variation in the Arrangement of Sensory Bristles along Butterfly Wing Margins

チョウの羽に存在する感覚毛に注目した論文。62 種ものチョウを調べ、感覚毛の位置や形態を基にその機能的な重要性について論じている。感覚毛の配置にみられる種多様性が、種特異的な羽の制御と関係がある可能性を示唆したユニークな論文である。

9. Zool. Sci. 28: 545-549

Kouki Ikeya and Manabu Kume

Seasonal Feeding Rhythm Associated with Fasting Period of *Pangasianodon gigas*: Long-Term Monitoring in an Aquarium

メコンオオナマズという生態の殆ど明らかになっていない絶滅危惧種を水族館で 6 年間に渡って観察することによって得られた摂食行動の年周期パターンは圧巻であり、水族館が長期にわたる地道な記載研究を通じて動物学へ貢献できる多くの可能性を示唆するものであり論文賞にふさわしいと考える。

10. Zool. Sci. 28: 875–881

Minoru Moriyama and Hideharu Numata

A Cicada that Ensures Its Fitness during Climate Warming by Synchronizing Its Hatching Time with the Rainy Season

近年の西日本、特に大阪周辺の都市部におけるクマゼミの個体数増加について、地球温暖化に伴って卵孵化時期が梅雨時に重なるようになったことが主要因であることを、生理生態学的アプローチによって明らかにした。温暖化とさまざまな生物の分布域変化の関係については多くの現象論的記載があるが、実際に温暖化に伴う分布域変遷の主要因を具体的に示した例は少なく、重要な研究であるとともに、なぜ最近クマゼミが増えているのかという、多くの日本人が素朴に感じている疑問に回答を与える、社会的にもインパクトのある研究成果である。

5. 第5号議案 平成24年度成茂動物科学振興賞（会長）

会長を含む4名の選考委員で選考した結果、全4件の応募から、秋山・小田氏が受賞候補として選出された旨が、資料9に基づき報告され、審議の結果、全会一致で承認された。

6. 第6号議案 平成24年度OM賞・奨励賞・学会賞（高橋孝行理事）

高橋選考委員長から、5月10日に学会賞等選考委員会（7名の選考委員）を開催し、OM賞は応募者7名から2名を決定、奨励賞は応募者12名から2名を決定、学会賞は、応募者7名から2名を決定したことが報告された。受賞者は以下のとおり。

1) 動物学会女性研究者奨励OM賞

岩越栄子（いわこし えいこ）・広島大学大学院総合科学研究科・非常勤講師

対象となった研究テーマ 「新規生理活性ペプチドの同定と機能解析」

廣瀬慎美子（ひろせ まみこ）・琉球大学理学部国際サンゴ礁研究ハブ形成プロジェクト・ポスドク研究員

対象となった研究テーマ

「刺胞動物の生殖巣形成と藻類伝達様式の多様性に関する研究」

2) 日本動物学会奨励賞

二橋 亮（ふたはし りょう）・産業技術総合研究所・研究員

対象となった研究テーマ 「昆虫の体色・斑紋形成と進化に関する研究」

坂本浩隆（さかもと ひろたか）・岡山大学大学院自然科学研究科・理学部附属臨海実験所・准教授 対象となった研究テーマ「本能行動を制御する作用機序に関する神経内分泌学的研究」

3) 日本動物学会賞

神谷 律 (かみや りつ)・東京大学大学院理学系研究科・名誉教授

対象となった研究テーマ

「鞭毛運動におけるダイニン機能とその調節機構の研究」

沼田英治 (ぬまた ひではる)・京都大学大学院理学研究科・教授

対象となった研究テーマ

「動物の生活史を調節する環境要因および生物時計の研究」

7. 第7号議案 感謝状の贈呈について (会長)

中野義勝氏 (琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底研究施設) と鷲尾正彦氏 (東北大学浅虫海洋生物学教育研究センター) に、動物学会感謝状を贈呈することが、資料10に基づき提案され、全会一致で承認された。

8. 第8号議案 名誉会員候補者推薦について (会長)

現在までに名誉会員候補者の推薦がないことが報告され、了承された。

9. 第9号議案 公益社団化後の諸規定の制定について (玉手理事)

公益社団法人日本動物学会定款細則、公益社団法人日本動物学会支部規程、公益社団法人日本動物学会監事規程、公益社団法人日本動物学会会費規程、及び支部活動費に関する内規と役員選考に関する内規、について、資料11に基づき説明があり、原案のとおり、承認された。なお、以上の規程は平成24年7月2日より施行する。

名誉会員に関する規程、学会賞・奨励賞・Zoological Science Awardに関する規程、OM賞に関する規程、教育賞に関する規程、成茂動物科学振興賞に関する規程、江上基金・川口基金に関する規程については、次回以降の理事会において改正案を審議することとなった。

10. 第10号議案 公益化後の支部会計処理について (寺北理事)

資料12に基づき、公益化後の支部会計処理の方法について提案があり、原案どおり承認された。

11. その他 (会長)

1) 公益社団化後の基金等の在り方について

会長より、川口賞、江上賞、OM賞等については、公益社団化後も寄付者の御意向に配慮して取り扱うため、ワーキンググループを組織して賞等の在り方を検討したい旨が提案され、了承された。

2) 理事選任について

理事が病気または所属機関の兼業申請が得られない場合の取り扱いについて、検討することとなった。

3) 選挙結果の公開について

理事選挙の結果は、本学会のホームページで公開することが提案され、了承された。

平成 24 年 6 月 9 日

議長 長濱 嘉孝

議事録署名人 玉手 英利

議事録署名人 寺北 明久